文化係

富山県婦中町

小倉中稲II遺跡

―県営農地流動化特別促進ほ場整備実験事業（小倉地区）に伴う発掘調査―

1993年３月

婦中町教育委員会

序

豊かなねい丘陵の森、とうとうと流れる神通川、井田川と美しい自然環境の中で、長い歴史と伝統に培われてきた町、それが私達の婦中町であります。

町の山間地は呉羽丘陵に連なり、平地に築かれた戦国時代の城の構造を知るうえで全国でも数少ない貴重なものとして国指定史跡に指定された安田城跡、中世における婦負郡丘陵地帯の仏教文化の中核をなした各願寺等を中心とする、県下でも有数の遺跡の宝庫として知られております。

この度、小倉地区の県営ほ場整備事業に先立ち、小倉中稲II遺跡の発掘調査を実施いたしました。この調査により、石組井戸跡などの遺構や珠洲焼等の遺物が発見され、この遺跡が室町時代を中心とした集落跡であることが明らかとなり、この地の中世の歴史を考えるうえでの重要な手がかりになり得ると思われます。

本書は、こうした調査の成果をまとめたものであります。小冊子ではありますが、今後の調査研究に広く活用していただくとともに埋蔵文化財の理解ならびに保護の一助となれば幸いであります。

終わりに、調査にご協力いただきました地元の方々をはじめとする関係各位に深く感謝申し上げます。

平成５年３月

婦中町教育委員会
教育長　清水　信義

例　　言

1．本書は、平成４年度に婦中町小倉地区県営農地流動化特別促進ほ場整備実験事業に先立ち実施した、婦中町小倉中稲Ⅱ遺跡の発掘調査の概要報告である。

2．調査期間・発掘面積は以下の通りである。

調査期間：平成４年８月20日～同年９月16日　発掘面積：約 450㎡

3．調査は、富山県農地林務部の委託を受け、婦中町教育委員会が主催した。調査費用のうち地元農家負担分については町費をあて、また現地調査にあたって富山県埋蔵文化財センターから職員の派遣を受けた。

4．調査事務局は、婦中町教育委員会生涯学習課におき文化係長見波重尋が調査事務を担当し、教育長清水信義が総括した。

5．調査参加者は次のとおりである。

調査担当者：富山県埋蔵文化財センター企画調整課　文化財保護主事島田修一・伊佐智法

調　査　員：富山県埋蔵文化財センター調　査　課　文化財保護主事越前慶祐

6．現地調査にあたっては婦中町シルバー人材センターの協力を得た。また調査期間中は地元小倉地区の方々から飲料水・駐車場・休憩所・資材置場の提供など大変お世話になった。記して厚く御礼申し上げる。

7．本書の作成・資料整理は島田・伊佐が行ったが、下記の方々から種々のご援助を頂いた。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

岡本淳一郎・斎藤　隆・橋本正春・酒井重洋・境　洋子・餅田千津子・生田寿美子・中坪千春・五百崎淳子

8．本書の編集は主として島田が行い、執筆は富山県埋蔵文化財センター職員の助言・協力を得て島田・伊佐が行った。個々の責は文末に記したとおりである。

9．本書の土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著　1967『新版標準土色帖』（株)日本色研事業に準拠している。

目　　次

Ⅰ．位置と環境……1

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡……1

Ⅱ．調査の経緯……2

第１表　事業計画地内遺跡一覧……2

第２図　事業計画地と遺跡の分布……3

Ⅲ．調査の概要……4

1．調査の経過……4

第３図　地形と区割図……4

第４図　遺構分布図……5

2．遺　　構……6

第５図　遺構実測図……7

第６図　遺構実測図……8

3．遺　　物……9

第７図　遺物実測・拓影図……10

第８図　遺物実測・拓影図……11

4．小　　結……12

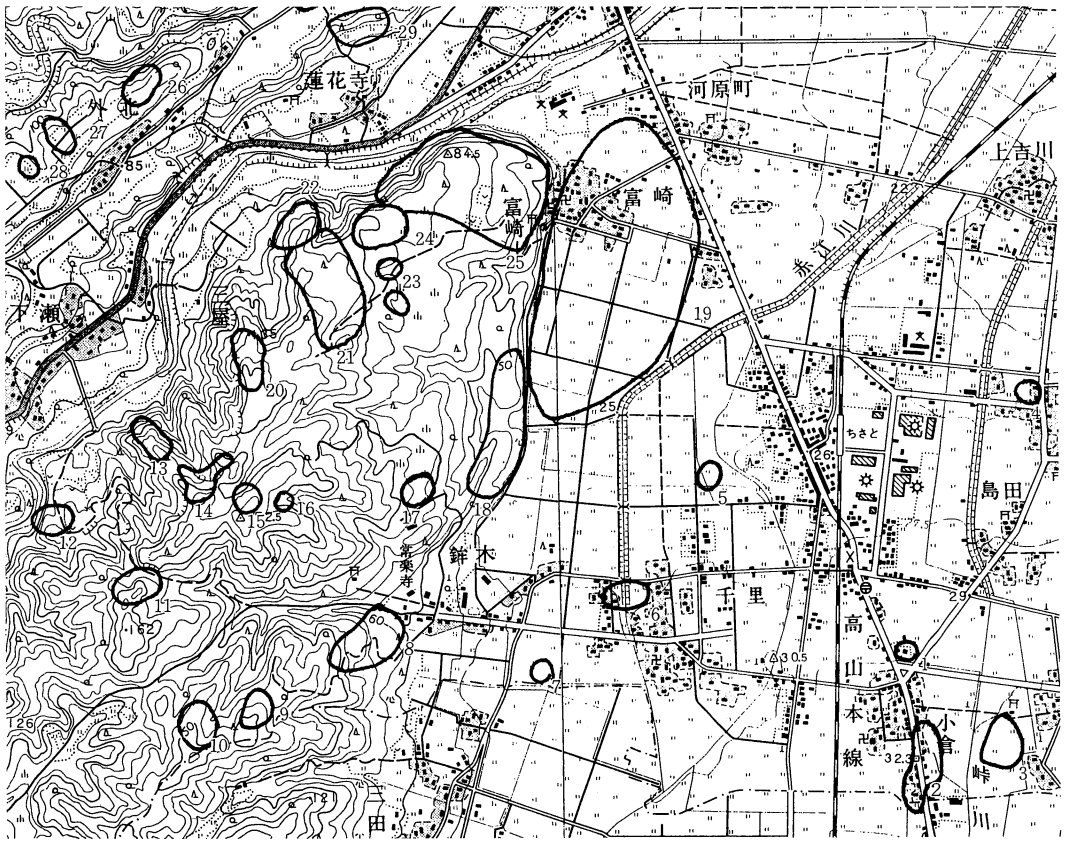
引用・参考文献……12

写真図版

Ⅰ．位置と環境

小倉中稲Ⅱ遺跡は、富山県婦負郡婦中町小倉地内に所在の中世を主体とする遺跡である。婦中町は、東と北側に富山市、南に婦負郡八尾町・山田村、西に砺波市と接し、婦負郡の中部に位置している。婦中町は、地形的には東西に細長く、神通川・井田川により形成された扇状地と、富山市の西から婦中町にかけて延びる呉羽丘陵などの丘陵部とから構成されている。本遺跡は、井田川左岸の扇状地上に位置し、標高は約29.5mになる（第１図）。

周辺の中世の遺跡を概観してみると、婦負・射水郡を中心に勢力を保持した神保氏の主要な出城のひとつであった富崎城跡（25）をはじめとする中世の山城・城館が山田川の右岸の丘陵上に多く立地しており、この地が当時から砺波郡と婦負郡とを結ぶ軍事上・交通上の要衝の地であったことが窺える。山田川左岸の低台地上には、神保氏との関わりが示唆されている蓮花寺遺跡(29)〔岸本ほか1984〕がある。また、扇状地上に立地する中世の遺跡としては小倉中稲遺跡（２）・小倉雑水河原遺跡（３）がある。（伊佐）



第１図　位置と周辺の遺跡　１小倉中稲Ⅱ遺跡、２小倉中稲遺跡(中世)、３小倉雑水河原遺跡(古墳・中世)、４高日附遺跡、５千里Ａ遺跡、６千里Ｂ遺跡、７千里Ｃ遺跡、８大館城跡(中世)、９猿ヶ馬場城跡(中世)、10山田南砦(中世)、11堀割砦(中世)、12下瀬遺跡、13下瀬砦(中世)、14赤坂砦(中世)、15森田山砦(中世)、16ゴダイ塚(中世)、17千里片坂遺跡、18富崎千里古墳群(古墳)、19富崎遺跡(近世)、20下瀬向山、21富崎赤坂(弥生・中世)、22離山砦(中世)、23富崎南野遺跡(縄文・奈良・平安・中世)、24富崎城西(城文)、25富崎城遺跡(縄文・弥生・中世)26外北Ａ遺跡、27外北Ｂ遺跡、28外北Ｃ遺跡、29蓮花寺遺跡(室町)

II．調査の経緯

婦中町小倉地区は、これまで公益投資による大規模な土地改良業が実施されないまま今日に至っていたが、近年、本格的な耕地の整備を求める地元農家の要望が高まりを見せていた。これを受けて富山県農地林務部では平成２年度に、将来的な農業事情等も考慮して当該地区のほ場整備事業を策定した。同事業は、平成３年度から３ヵ年で約20.8haを施工する計画であった。この計画策定に伴って埋蔵文化財の所在状況・対応措置について照会を受けた婦中町教育委員会では、平成２年12月に富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を得て事業区域内の遺跡分布調査を実施した。この調査により、９箇所で中世から近世を主体とする遺物散布地が発見された。

引き続き翌平成３年度に春・秋２期にわたって５箇所（Ｎｏ．１・３・４・５・６地区）の試掘調査を実施し、Ｎｏ．１地区で小倉雑水河原遺跡、Ｎｏ．３地区で小倉中稲遺跡を確認した。またＮｏ．５地区では遺構の確認はできなかったものの、遺物の出土状況や周辺の地形から判断して遺跡の立地する可能性が高いことが推測された。町教育委員会は、この調査結果をもとに県埋蔵文化財センター・県農地林務部・地元土地改良区と当該遺跡群の保護措置について協議を重ね、小倉中稲遺跡は翌平成４年度本調査を実施し、またＮｏ．５地区の内約5,000m²については工事着手の際に再度立ち会い調査を実施することで合意した。

これに基づき今年度７月に当該地区の立ち会い調査を実施したところ、約500m²で遺跡の広がりが確認され、小倉中稲II遺跡とした。このため関係機関と協議を行い、工事を一時中断して、削土により影響を受ける約450m²を対象に早急に本調査対応するに至った。なお、この調査と相前後して、残り４地区（Ｎｏ．２、７～９）の試掘調査と、小倉中稲遺跡（旧Ｎｏ．２・３・９）の本調査が国庫補助金を受けて実施され、その成果が公表されている。（第１表、第２図）

No.	遺跡名	時代	発見された遺構	発見された遺物	備考
1	小倉雑水河原	古墳・中世	川跡	須恵器・土師器・珠洲 青磁・磁器	現状保存 旧No.1遺跡
2	小倉中稲	中世・近世	堀立柱建物・土坑・石組土坑・石組井戸・池状遺構・土坑墓跡・川跡	珠洲・中世土師器・青磁 白磁・越中瀬戸・瀬戸美濃 石製品・木製品・銅製品等	H.4本調査 旧No.2・3・9 遺跡
3	小倉中稲II	中世・近世	石組井戸・板組井戸・土坑 溝	珠洲・中世土師器・青磁 越中瀬戸・伊万里・唐津等	H.4本調査 旧No.5遺跡
4	No.4	中世・近世		珠洲・越中瀬戸	H.3試掘
5	No.6	縄文・中世		縄文土器・珠洲・磁器	〃
6	No.7	縄文		縄文土器	H.4試掘
7	No.8	中世・近世		越中瀬戸・珠洲	〃

第１表　事業計画地内遺跡一覧（遺物欄はH.2分布調査の採集遺物を含む）

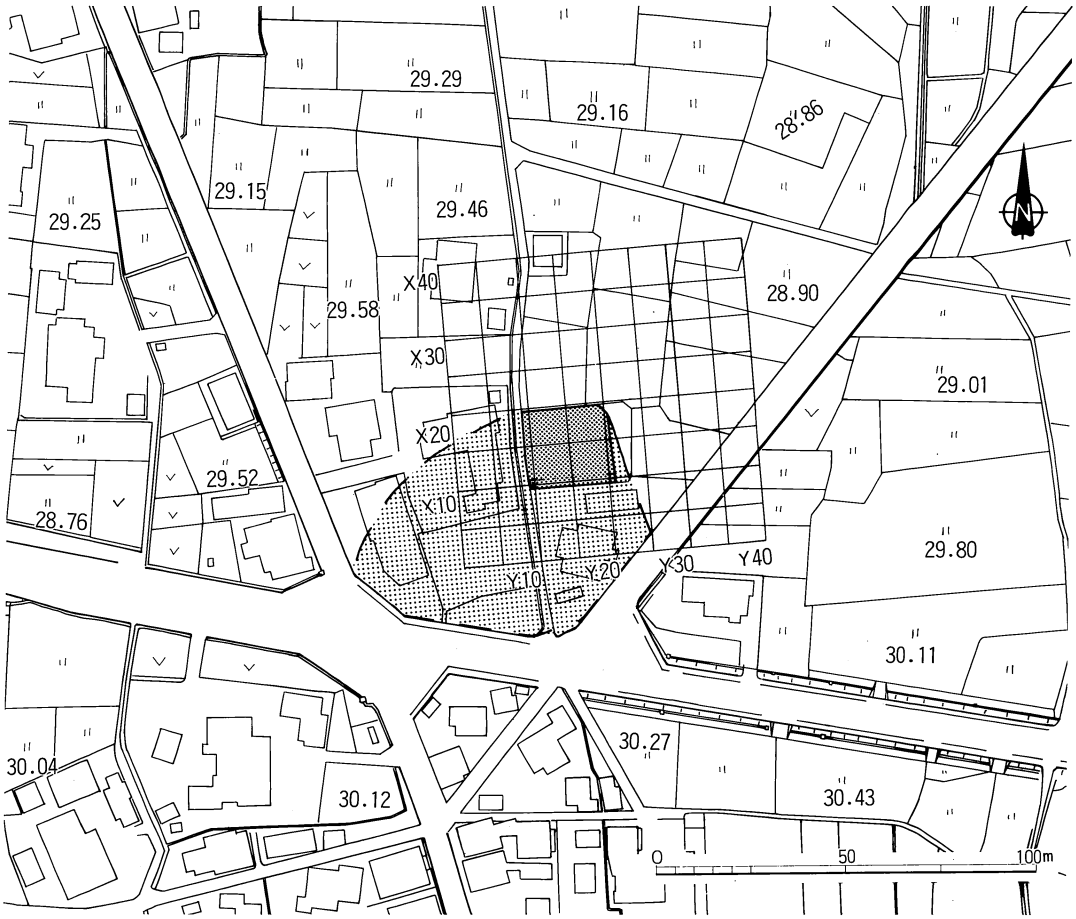
第２図　事業計画地と遺跡の分布(1/5,000)

Ⅲ．調査の概要

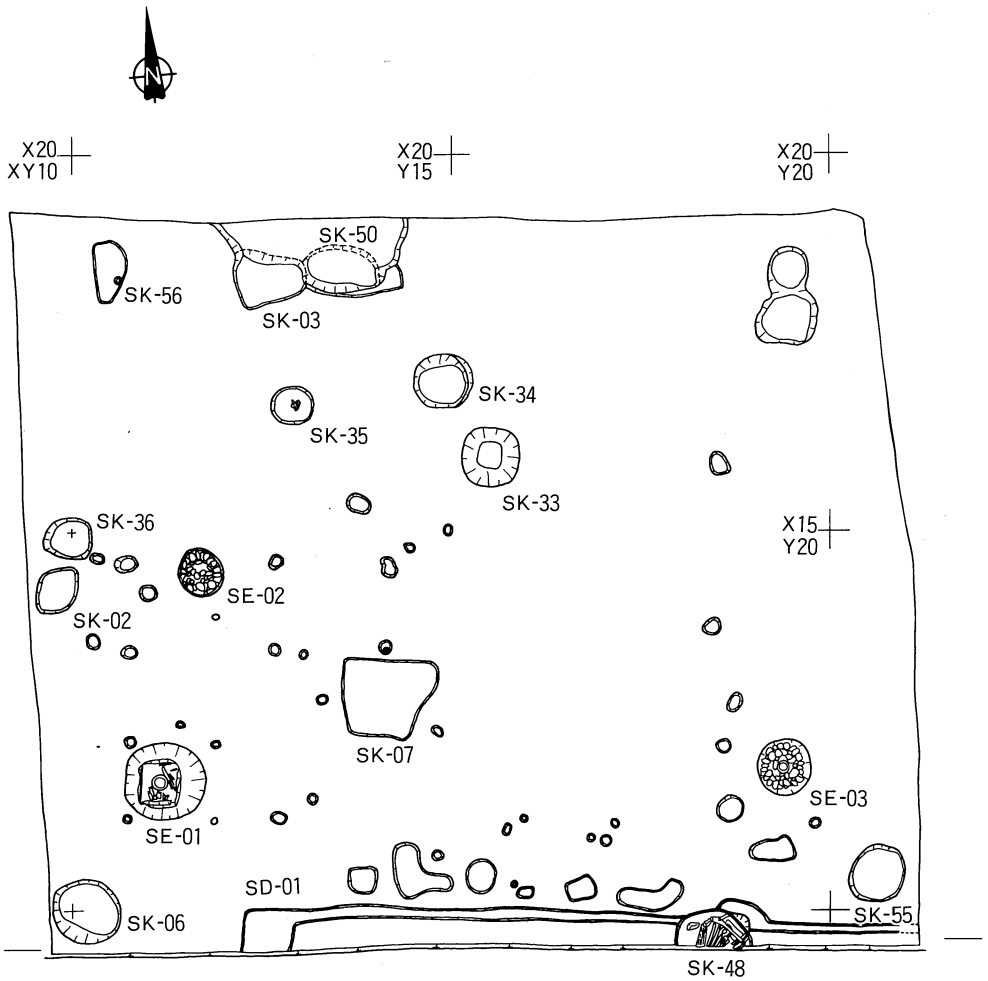
発掘調査は、まずバックホウにより調査区全体の表土（現耕作土）の除去を行い、その後10ｍ×10ｍのグリッドを一区画として設定した。その後人力により鈍黄褐色砂質ローム層（地山）まで掘り下げて遺構確認作業を行い、引き続き個々の遺構ごとにその検出を行った。一帯の基本層序は、１層10ＹＲ3/2黒褐色シルト質ローム（現耕作土）、２層10ＹＲ5/6黄褐色シルト質ローム（水田床土）、３層10ＹＲ4/2灰黄褐色シルトローム（旧水田耕作土）、４層10ＹＲ3/4暗褐色シルト質ローム（旧水田床土）と堆積し、10ＹＲ5/4鈍黄褐色砂質ローム（地山：遺構確認面）に至る。

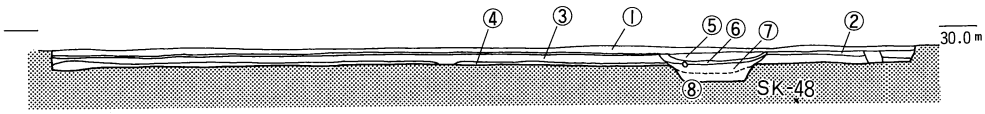
調査の結果、発掘区のほぼ全域の３層・４層から遺物の出土を見たが、遺物包含層と呼ぶには極めて散発的な状況であった。また、遺構についてもほぼ全域で検出されたが、比較的南西部に多く、その大半が深さ10cm～30cmと遺存状況は決して良好とは言えなかった。これらの状況から、一帯は水田開墾の際、高所ゆえに削平受けたことが窺われた。

以上、現地調査は平成４年８月20日から開始し、９月17日までの延べ18日間を要した。発掘面積は約450m²である。（第３・４図）



第３図　地形と区割図





X5
Y10

X5
Y15

X5
Y20

基本層序

①10Y R3/2黒褐色シルト質ローム(耕土)
②10Y R5/6黄褐色シルト質ローム(水田床土)
③10Y R4/2灰黄色シルト質ローム
④10Y R3/4暗褐色シルト質ローム
⑤10Y R3/3暗褐色シルト質ローム(ＳＫ－48覆土)
⑥10Y R2/3黒褐色シルト　(　〃　)
⑦10Y R2/2黒褐色シルト　(　〃　)
⑧5G Y5/1オリーブ灰色シルト　(　〃　)

0　10m

第4図　遺構分布図(Ｓ＝1/200)

2．遺　構

（1）井戸（第５図、図版２～５）

木組井戸１基、石組井戸２基を検出した。石組井戸の積石は河原石が使用され、時計回り螺旋状に積まれていた。いずれも深さ１ｍ前後と浅いが、かつての湧水層であったと思われる赤褐色砂礫層まで達しており、当時の地下水位が高かったことを窺わせる。

ＳＥ－01　堀り方は２ｍ×2.1ｍの不整円形を呈する木組井戸で、本体は西側に偏って造られている。井戸側は、多角柱状に面取りした杭を隅柱として設置し、南北・東側の３辺は４～５枚の縦板を組み、西側のみを20cm×１ｍの横板を組んでいる。縦板は、土圧により幅10cm程の板切れに割断され、大半が底面へ散乱もしくは内傾した状態で検出された。底面付近から30cm程度しか遺存せず､隅柱と板の組合わせ手法や横桟の有無など不明な点が多く全容を知り得ないが､いわば方形横桟縦板型木組井戸の変型と考えたい。井筒（水溜）には径約40cmの曲物が据えられていた。また、周辺には４箇所に柱穴状の小土坑が検出されており、覆屋があった可能性もある。遺物は、13世紀頃の中世土師皿（４）・珠洲すり鉢片（14）が各１点のみ出土している。

ＳＥ－02　検出面での規模は6.5×7ｍの不整円形の堀り方を持つ円形石組井戸である。検出面からの深さは約80cmと浅く、井戸側の内径は短軸60cm、長軸70cmを測る。井筒（水溜）の設置は認められず、石組は底面近くの４～５段のみが残存していた。検出面からの深さや、井戸内には本来井戸側上部に積まれていたと思われる石が転落していたことから、井戸の上部はかなり削平されているものと考えられる。遺物は、珠洲すり鉢の口縁部片が１点出土している。

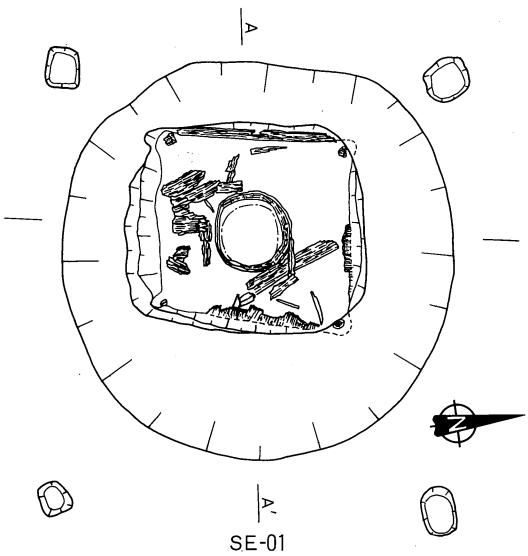
ＳＥ－03　径約1.4ｍの円形の堀り方を持ち､断面すり鉢形を呈す石組井戸である。検出面からの深さは約1.2ｍと比較的浅く、井戸側の内径は短軸60cm､長軸70cmを測り不整円形を呈す。石組は10段残存し、端正に積まれていたが、ＳＥ－02と同様に井戸内には上部に積まれていたと見られる石が転落ないしは投棄されていた。井筒（水溜）には径約30cmの曲物が据えられており、その内側には落下したと見られる桶の底板部が埋まっていた。遺物の出土は少なく、珠洲壺、甕の底部・胴部片が各１点出土したのみである。

（2）土坑（第６図、図版４－３）

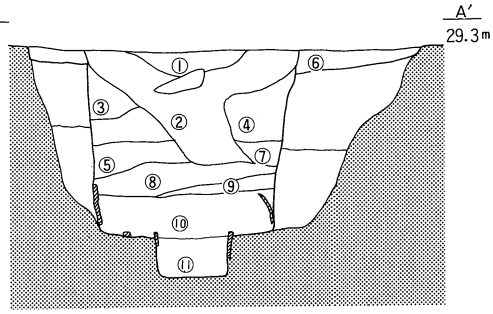
径１ｍを越える比較的大型の土坑10箇所、径20～30cmの小さな土坑40箇所ならびに、その他不整形なもの６箇所を検出した。小土坑のうちＳＫ－16・18など幾つかは柱穴と考えられたものの、いずれも建物に伴う柱穴として検証し得なかった。また大半が上部を削平され遺存状態が良好とは言えず、遺物を伴うものも少ない。以下、主要な土坑についてのみ概要を記す。

ＳＫ－03・50　調査区北端で検出。遺構確認上面では、ＳＫ－03が50を切っているのが確認できたが、最終的には北側壁面等が検出できず、形状・規模は詳細不明。おそらく短軸1.2ｍ前後、長軸２ｍ程度と思われる。遺物は中世土師皿（２・３・５）、青磁（６～９）が出土している。

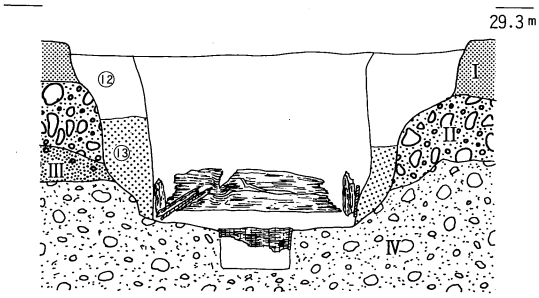
ＳＫ－33　径約1.5ｍを測る方形を呈し、検出面からの深さは約1.1ｍを測る。あるいは素掘りの井戸とも考えられるが、一応土坑として捉えた。覆土内中層から中世土師皿（１）、青磁？その他近世陶磁器が混在して出土している。

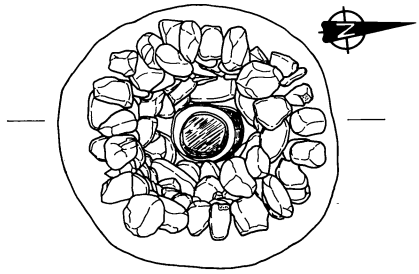


SE-01

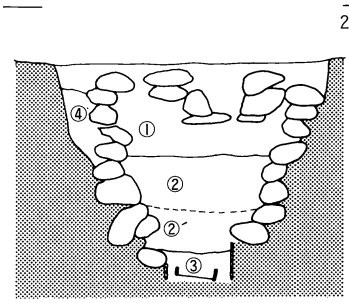


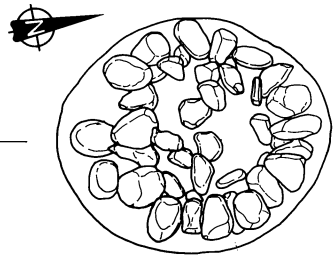
①10YR4/1褐灰色シルト質ローム
②10YR2/2黒褐色　〃
③10YR5/2灰黄色　〃
④10YR4/2灰黄褐色　〃
⑤10YR3/1黒褐色　〃
⑥10YR5/4にぶい黄褐色　〃
⑦10YR6/2灰黄褐色　〃
⑧10YR4/3にぶい黄褐色　〃
⑨10YR4/6褐色シルト質ローム
⑩10YR2/1黒色　〃
⑪10YR2/1黒色　〃
（⑩より粘性強、木質多く混入）
⑫10YR5/6黄褐色シルト質ローム
⑬5BG6/1青灰色シルト質ローム
Ⅰ10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト
Ⅱ10YR6/1灰黄褐色砂礫（φ5mm）
Ⅲ5Y6/1灰色砂
Ⅳ5YR4/6赤褐色砂礫（φ2～5mm）





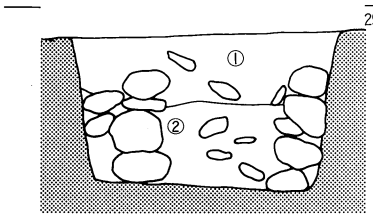
SE-03



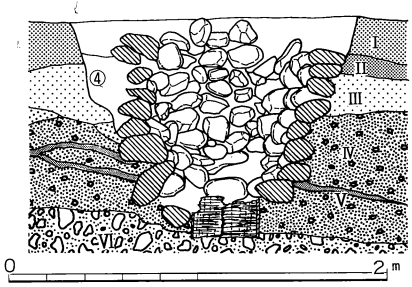


SE-02

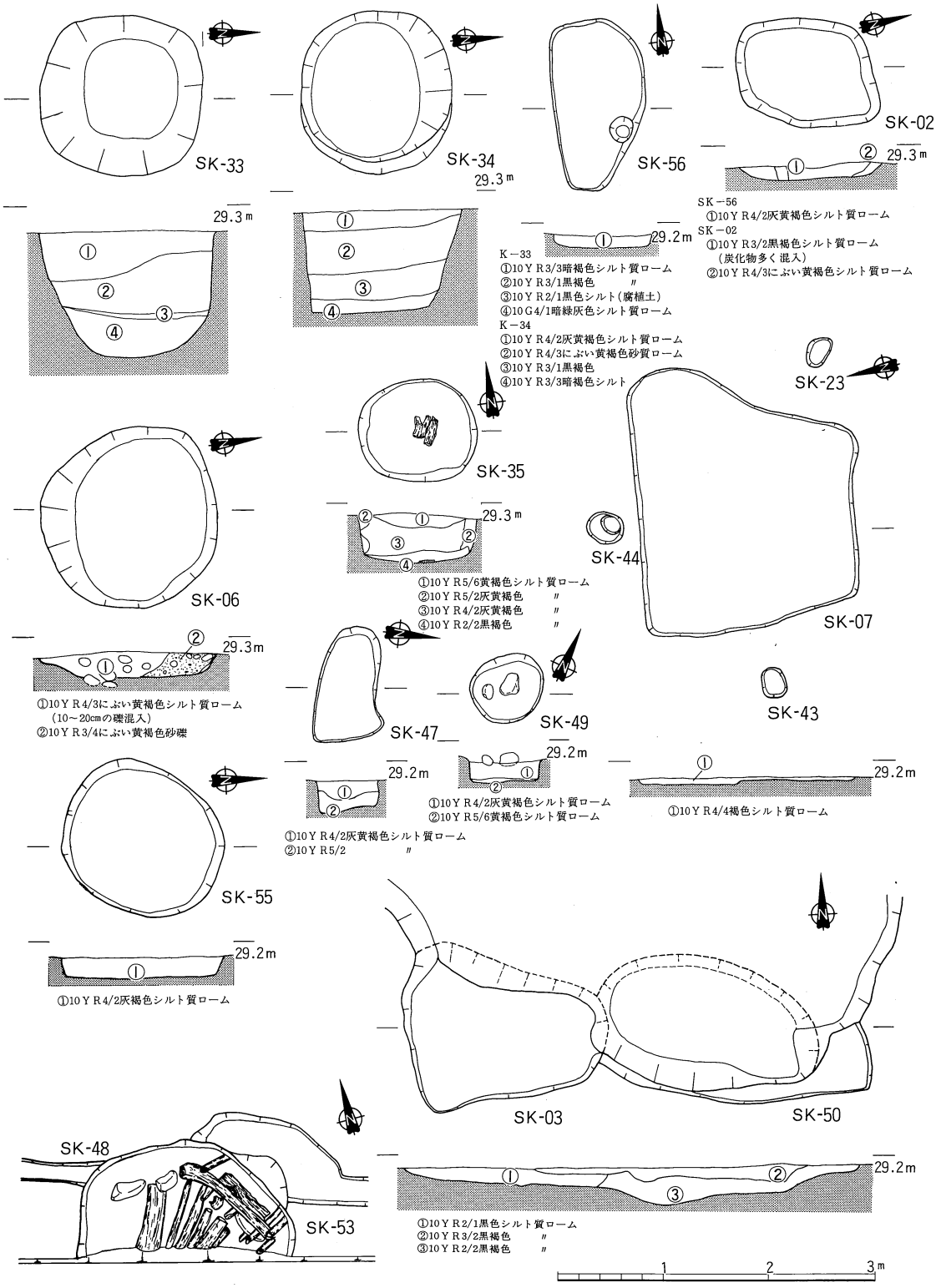
①10YR4/2灰黄褐色シルト質ローム
②10YR5/2　〃



①10YR4/2灰黄褐色シルト質ローム
②10YR4/6褐色シルト質ローム
②'10YR4/6　〃（粘性強）
③10YR2/2黒褐色シルト質ローム
④10YR4/4褐色シルト質ローム（堀り方埋土）
Ⅰ10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ローム
Ⅱ10YR5/6黄褐色砂質シルト
Ⅲ5BG6/1青灰色　〃
Ⅳ10YR6/2灰黄褐色砂
Ⅴ10YR3/3暗褐色シルト（腐植土）
Ⅵ5YR4/6赤褐色砂礫



第5図　遺構実測図(1/40)


SK-33
SK-34
29.3m
SK-56
SK-02
29.3m
SK－56
①10ＹＲ4/2灰黄褐色シルト質ローム
SK－02
①10ＹＲ3/2黒褐色シルト質ローム
（炭化物多く混入）
②10ＹＲ4/3にぶい黄褐色シルト質ローム
29.3m
29.2m
K－33
①10ＹＲ3/3暗褐色シルト質ローム
②10ＹＲ3/1黒褐色　〃
③10ＹＲ2/1黒色シルト（腐植土）
④10Ｇ4/1暗緑灰色シルト質ローム
K－34
①10ＹＲ4/2灰黄褐色シルト質ローム
②10ＹＲ4/3にぶい黄褐色砂質ローム
③10ＹＲ3/1黒褐色
④10ＹＲ3/3暗褐色シルト
SK-23
SK-35
SK-06
29.3m
SK-44
SK-07
①10ＹＲ5/6黄褐色シルト質ローム
②10ＹＲ5/2灰黄褐色　〃
③10ＹＲ4/2灰黄褐色　〃
④10ＹＲ2/2黒褐色　〃
29.3m
①10ＹＲ4/3にぶい黄褐色シルト質ローム
（10～20cmの礫混入）
②10ＹＲ3/4にぶい黄褐色砂礫
SK-47
SK-49
SK-43
29.2m
29.2m
29.2m
①10ＹＲ4/2灰黄褐色シルト質ローム
②10ＹＲ5/2　〃
①10ＹＲ4/2灰黄褐色シルト質ローム
②10ＹＲ5/6黄褐色シルト質ローム
①10ＹＲ4/4褐色シルト質ローム
SK-55
29.2m
①10ＹＲ4/2灰褐色シルト質ローム
SK-03
SK-50
SK-48
SK-53
29.2m
①10ＹＲ2/1黒色シルト質ローム
②10ＹＲ3/2黒褐色　〃
③10ＹＲ2/2黒褐色　〃
1
2
3m

第６図　遺構実測図

ＳＫ－34　1.5×1.4ｍの不整円形を呈し、深さは約90cmを測る。当初は素掘りの井戸と考え掘り進めたが、覆土下層から納骨甕破片、越中瀬戸小型壺（13）の他、近現代とみられる陶磁器が乱雑に投棄された状態で出土。近世以降の墓穴的な性格も想定できるが判然としない。

ＳＫ－35　径1.7ｍの円形を呈し、検出面からの深さは約50cmを測る。底面中央に木板片が据えられており、近現代の陶磁器が若干出土。

ＳＫ－48　調査区南東端で北側半部のみを検出。規模・形状は明かでないがおそらく径２ｍ程の円形もしくは長円形と思われる。掘削当初から調査区南側の土層断面で存在が確認でき、１層直下から掘り込まれＳＫ－53、ＳＤ－01を切り込むことが後に判明した。壁面に沿って丸太・板材を直径４cm程の丸木杭で挟んで固定し柵囲い状に設置し、その底面近くでは、半截した丸太や直径５cm～20cmの杭・丸太が乱雑に敷設されていた。覆土上層から中層にかけて近世の陶磁器、近代以降の磁器（３～10・16・17）・ガラス製品が数多く投棄された状態で出土した。近現代に使用された水利施設的な機能が考えられるが詳細は不明である。

（３）溝（第４図）

ＳＤ－01　調査区南端で検出。幅20～30cm、深さは削平を受けたとみえ５～10cmと非常に浅い。Ｘ10Ｙ13区で水溜状の広がりを見せながら南側（住宅下：調査区外）へ延びており、一方、東側ではＹ20区を過ぎたあたりで不明瞭となる。遺物の出土はなく詳細は明かでない。　（島田）

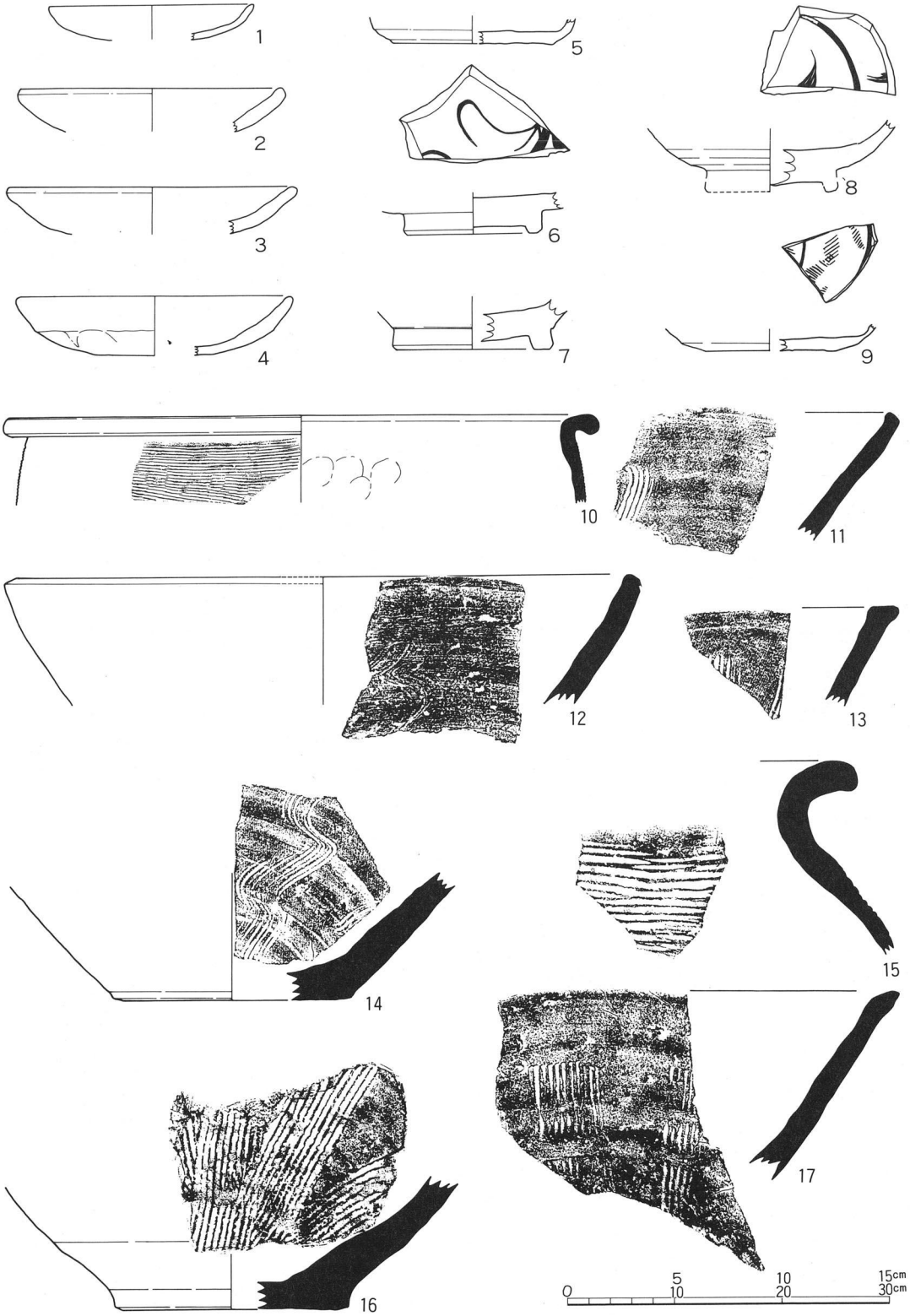
３．遺　物

遺物は、中世土師器・珠洲・中国製陶磁器（青磁・白磁）・近世陶磁器が出土している。

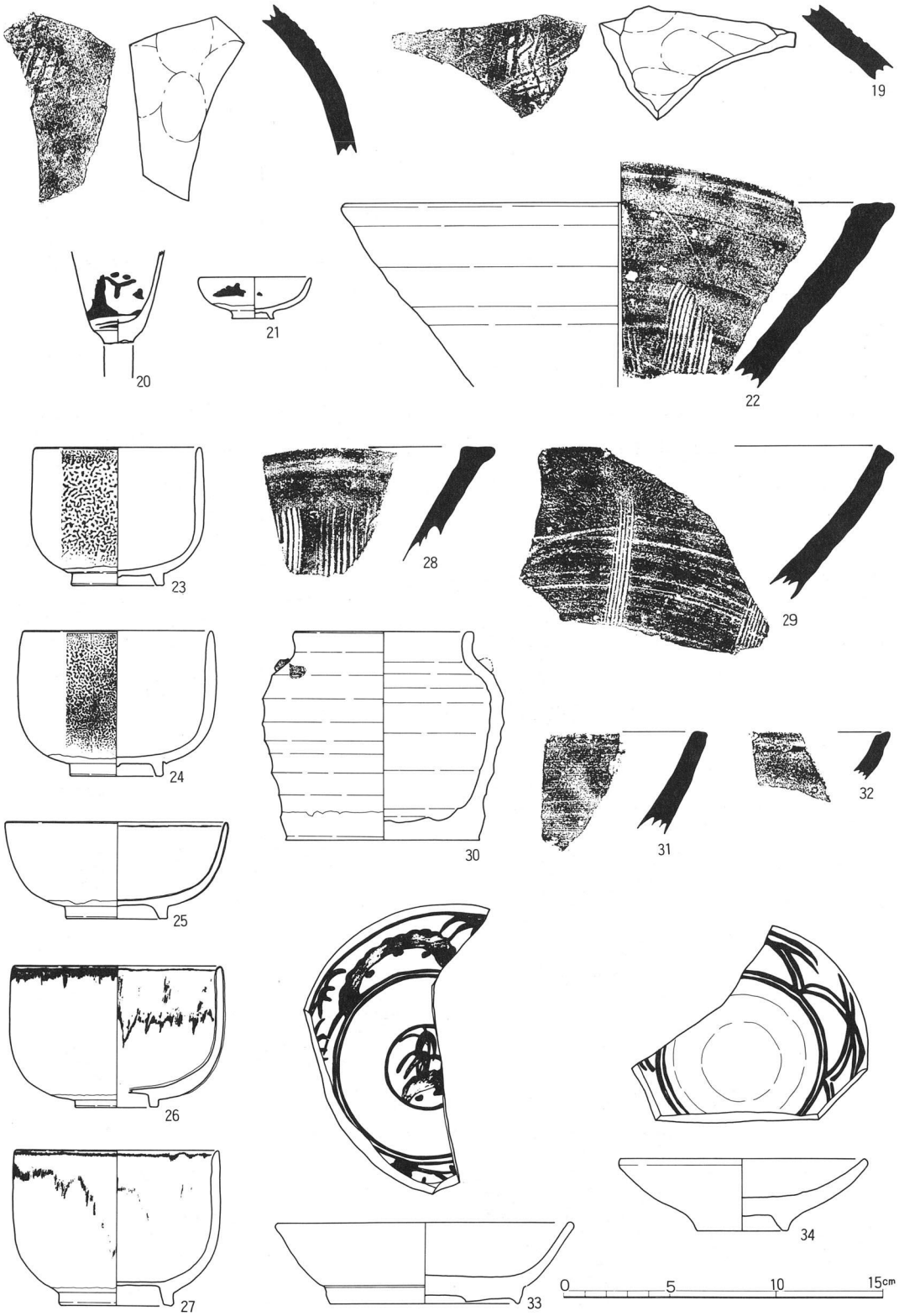
中世土師器　すべて皿破片で、手づくねのものには、径が約10cmのもの（１）と約13cmのもの（２～４）がある。13世紀から15世紀程の時期のものであろう。５は底部糸切りのもので12世紀後半から13世紀の時期のものである。

珠洲　甕・壺・こね鉢・すり鉢などの器種がある。Ⅰ期に遡りそうな珠洲としては、18・19の甕胴部片があり、両胴部片とも外面に格子目の叩き痕がある。Ⅱ期からⅢ期にかけてと考えられるものには11・12・14・15・29がある。15は甕の口縁である。11・12・14・29はいずれもすり鉢の口縁ないし底部であるが、29のようにすり目を直線的に施すものと、12・14のようにすり目を蛇行させるものとがある。全体では蛇行させるものが多く見られる傾向である。Ⅳ期と考えられるものは13・22・28である。いずれも口縁部の面が水平になるものである。すり目は22が10本、28が12本、13は不明である。Ⅴ期からⅥ期のものは16・17である。16はすり鉢の胴部から底部にかけての破片ですり目は16が10本である。17は口縁部から胴部にかけてのもので、すり目は11本である。こね鉢(31・32)は、口縁形態から13世紀の時期のものである。珠洲は吉岡編年でいうとⅠ期からⅥ期の時期幅があり、特に多く出土している時期はみられない。

中国製陶磁器　青磁の器種には碗（６・８）と皿（９）・水注がみられる。６は底部でつる草状のへら描文が描かれている。灰オリーブ色の釉である。８は胴部から底部にかけてでオリーブ色の釉である。櫛描文が描かれている。９は皿の底部で明緑灰色の釉がかかり、細い櫛描きの文様がある。水注は破片ではあるが取手片と口片がある。白磁の器種には碗（７）・水注がある。



第7図　小倉中稲II遺跡出土遺物実測・拓影図(10は1/6, 他は1/3)



第8図　小倉中稲Ⅱ遺跡出土遺物実測・拓影図(1/3)

7は灰白色釉のかかる碗の底部。水注は図示しなかったが取手の付く胴部片がある。

近世陶磁器　25は黒褐色の釉が施されている。26は内面は灰色釉を、外面は黒色釉をかけている。27は内外面とも紫色の釉をかけている。これらは越中丸山焼と考えられる。23・24は柵山窯の製品に類似するものである。23は暗褐色の釉、24はオリーブ黒色の釉をかけている。20は暗赤色の釉で模様を描いており、九谷の盃と考えられる。30は暗オリーブ褐色の釉のかかる越中瀬戸の小型壺で、底部に回転糸切り痕がある。21・33・34は伊万里である。21は盃。33は蛇の目凹形高台の染め付け皿で、18世紀末～19世紀前半のもの。34は見込み蛇の目釉はぎの染め付け皿で、18世紀代のものである。　（伊佐）

4．小　結

今回の検査で検出された遺構の主体をなす井戸跡は、宇野隆夫氏の研究成果〔宇野1989〕に照らせば、ＳＥ－02がＣＩ類、ＳＥ－02がＣII類そしてＳＥ－01はＢⅣ類・ＢＶ類の折衷型となる。いずれの井戸も出土遺物が僅かで時期を決定するのは困難であり、ＳＥ－01が13世紀代に比定できる他は判然とせず、一応、ＳＥ－02・03がやや新しく13世紀後半～14世紀頃と考えている。これは宇野氏が指摘されたとおり、中世木組井戸から石組井戸への変遷を如実に示しており、当遺跡井戸群はまさに中世前半期の築造技術の変革期の直中あると言える。

また、これら検出された遺構・遺物のあり方からみて、今回の調査区は当小倉中稲II遺跡の東側縁辺部にあたり、中心は現在の集落内に含まれると考えられる。さして時を違えず調査が実施された小倉中稲遺跡では中世全般（13世紀～16世紀）にわたる集落跡が発見されており、その成果を併せみても、この小倉地区の当該期の遺跡群は、現在の集落の成立・発展と密接な関わりをもつものと推定される。ただ、今回の発掘調査は、工事立ち会い調査によって確認された遺跡の緊急調査であったため、範囲が極めて限定されており、当地区の中世期の様相を明らかにするひとつの手がかりを得たに過ぎない。今後、当該期の集落跡の成立所以やその性格など検討すべき点は多々あり次年度も実施される小倉中稲遺跡の発掘調査成果に期待したい。

引用・参考文献

イ　岩永省三・高瀬要一・松本修自・毛利光俊彦　1886　「Ⅲ遺構」『平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告』奈良国立文化財研究所

ウ　上野　章・押川恵子　1990　『井口城跡発掘調査概要』井口村教育委員会

　宇野隆夫　1989　「10井戸考」『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』真陽社

カ　亀井明徳　1986　『日本貿易陶磁の研究』同朋舎

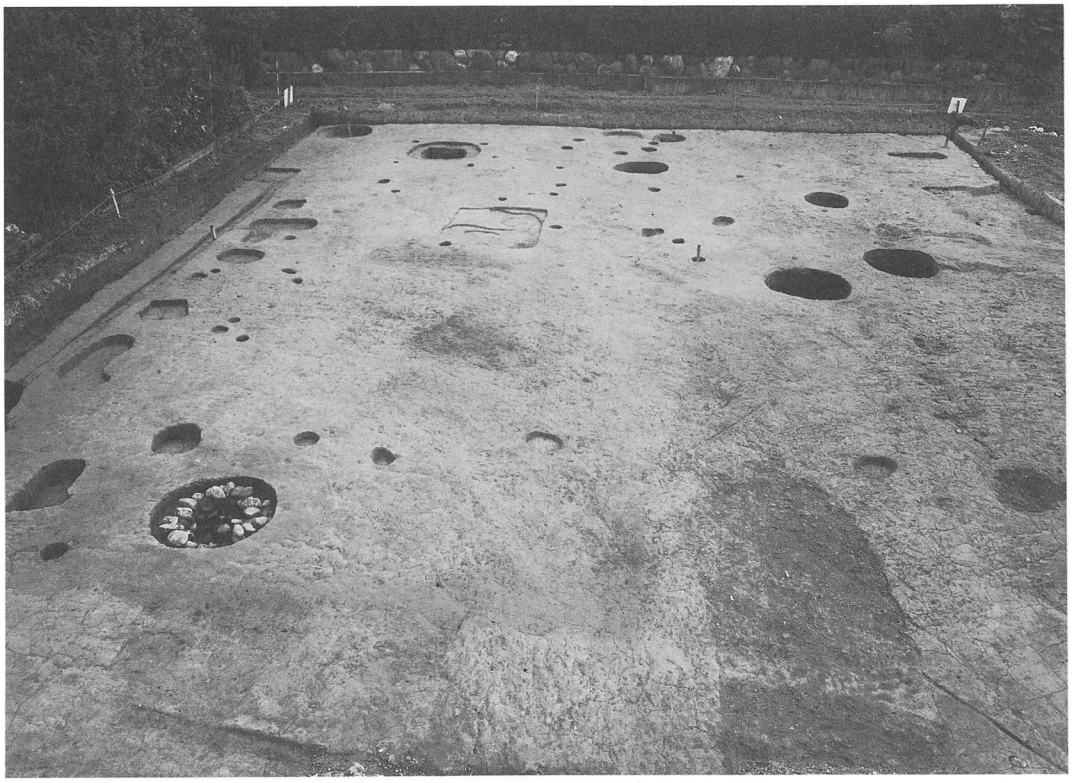
キ　岸本雅敏　1984　『蓮花寺遺跡の調査』婦中町教育委員会

サ　佐賀県立九州陶磁文化館　1984　『北海道から沖縄まで　国内出土の肥前陶磁』

ス　鈴木康之　1991　「II－２－Ａ遺構」『草戸千軒町遺跡－第44・45次発掘調査概要－』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編

フ　婦中町史編纂委員会　1968　『婦中町史－上巻－』婦中町

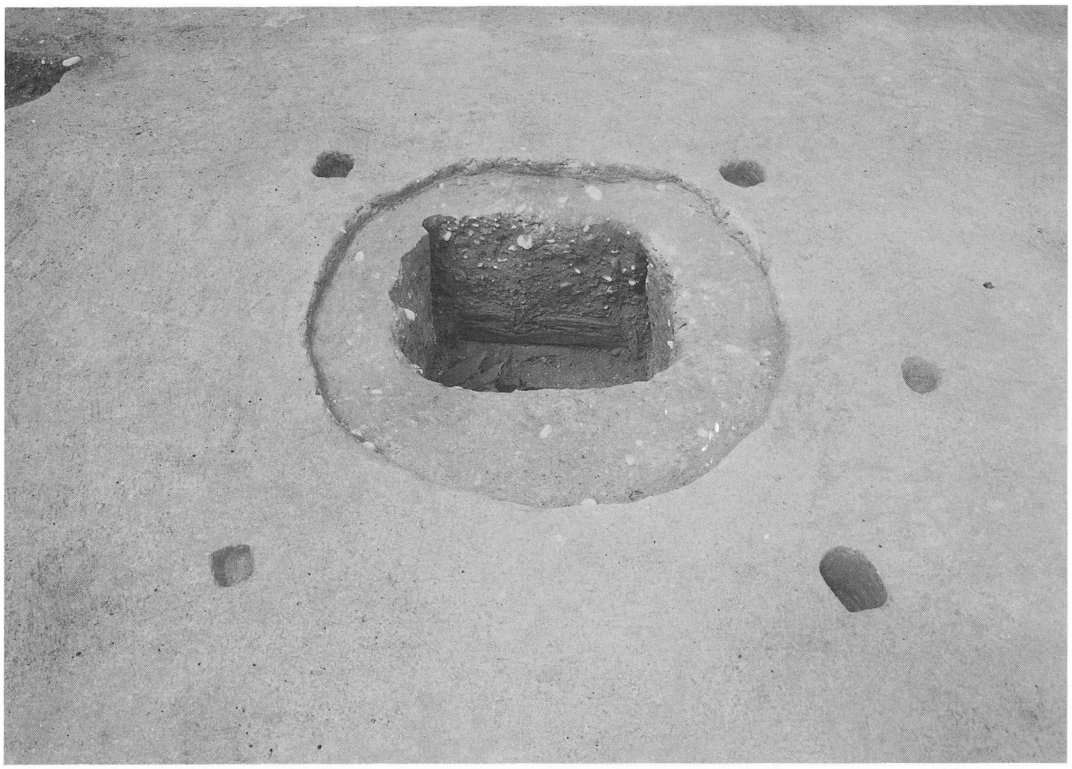
ヨ　吉岡康暢　1989　「総論－珠洲古陶」『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館



調査区全景(東から)

調査区全景(北から)

図版2



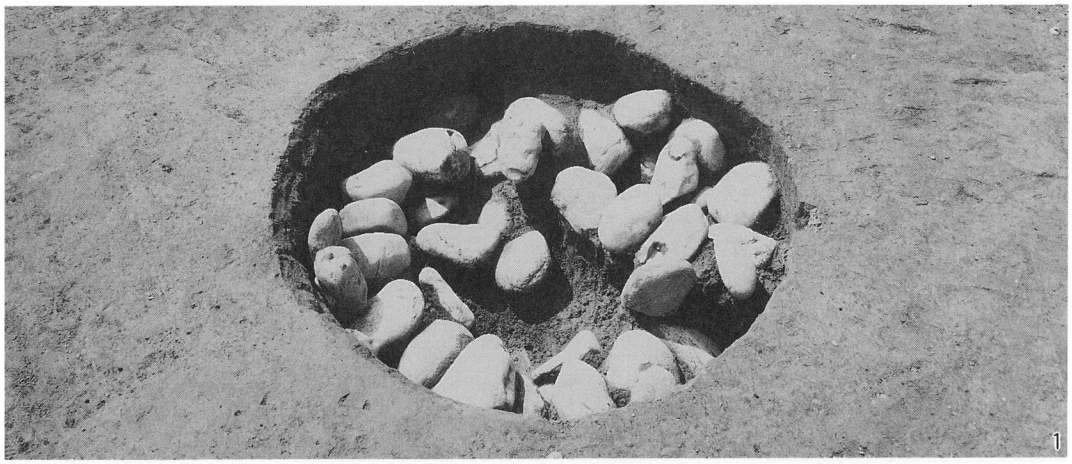
SE－01(東から)

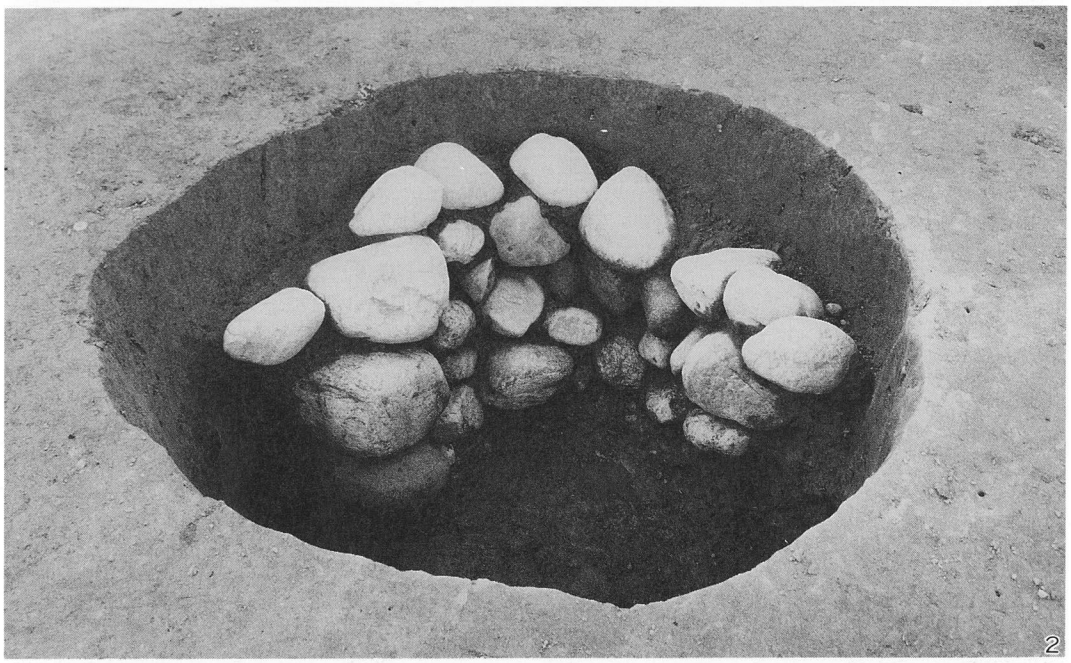
SE－01(南から)

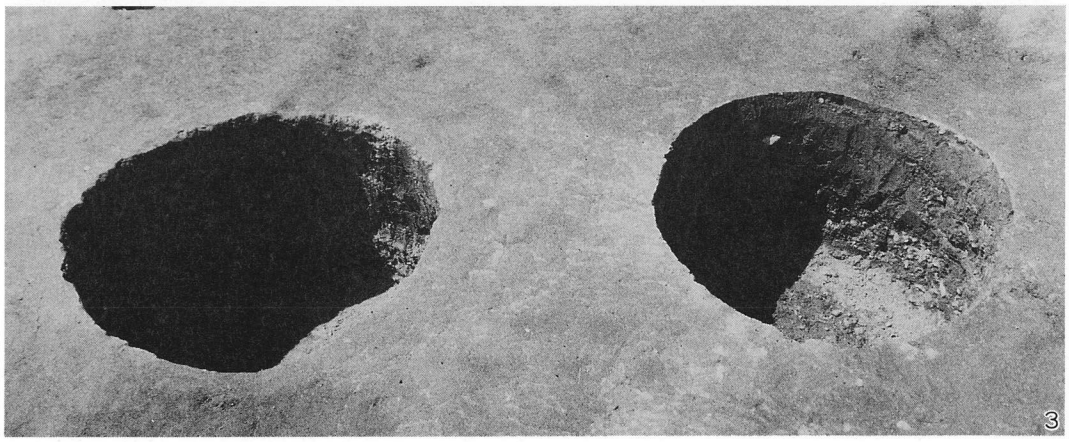
SE－01底面(東から)

SE－01断面(東から)

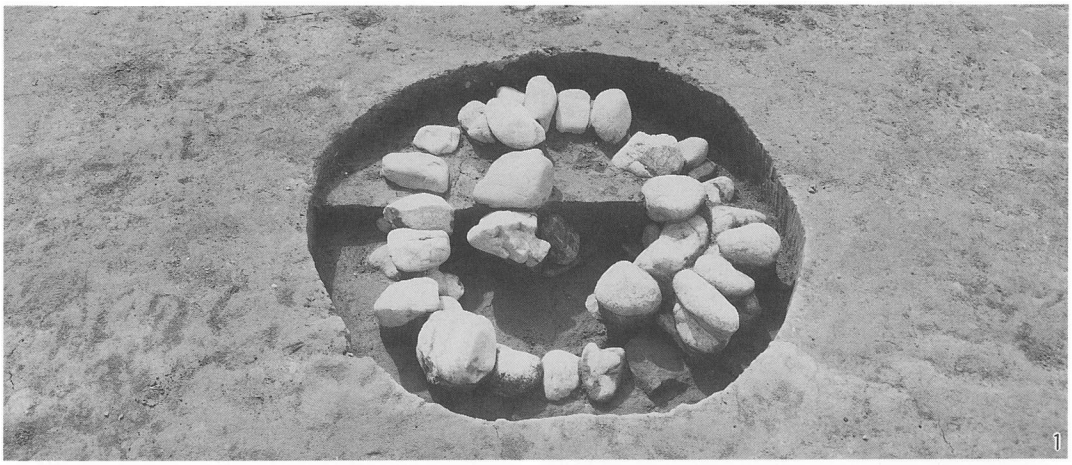
図版4

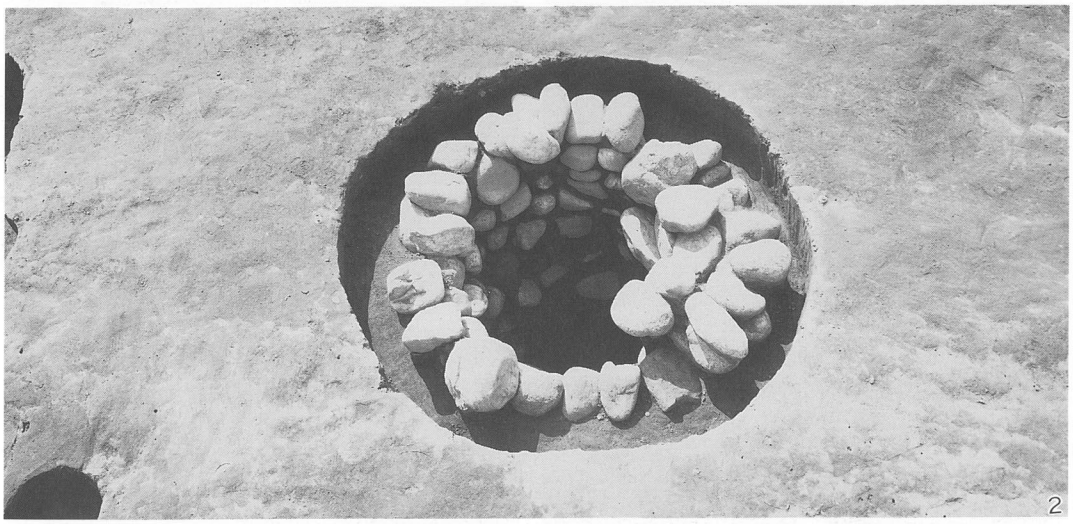






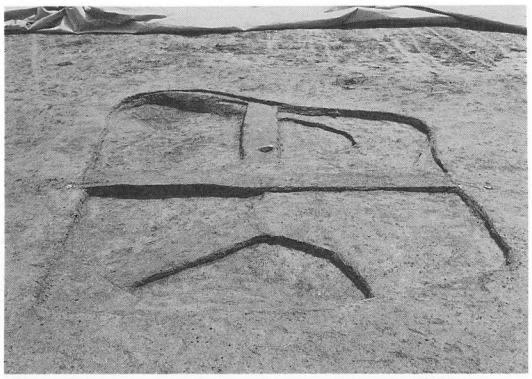
1．SE－02(東から)　2．SE－02断面(東から)　3．SK－33、SK－34(東から)



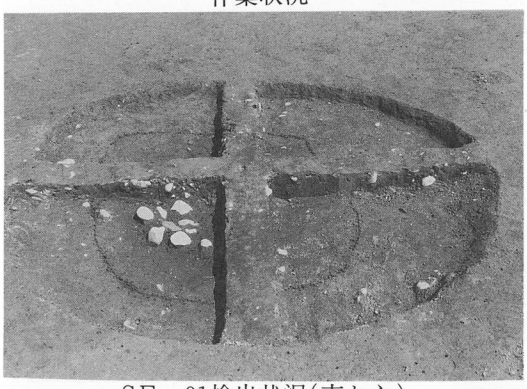


1・2．SE－03(東から)　3．SE－03断面(東から)

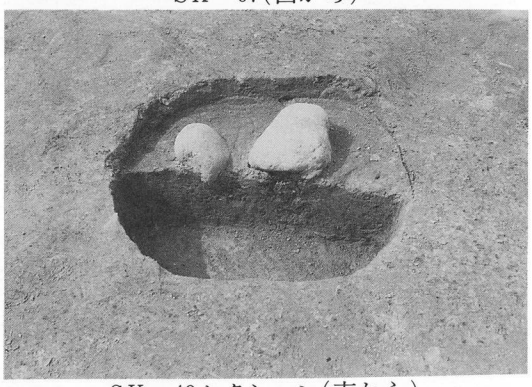
作業状況



SK－07(西から)

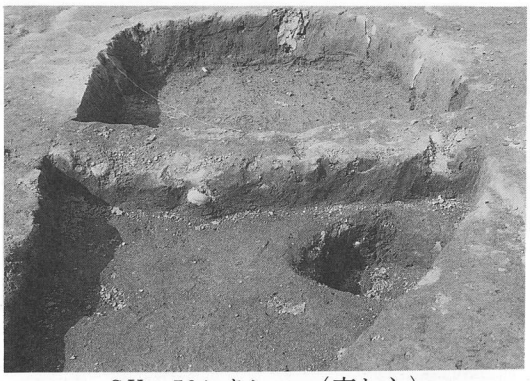


SE－01検出状況(南から)

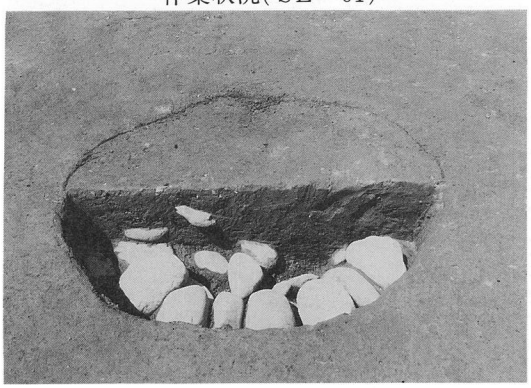


SK－49セクション(南から)

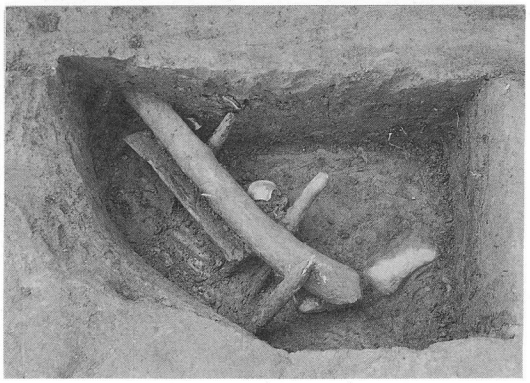
作業状況(SE－01)



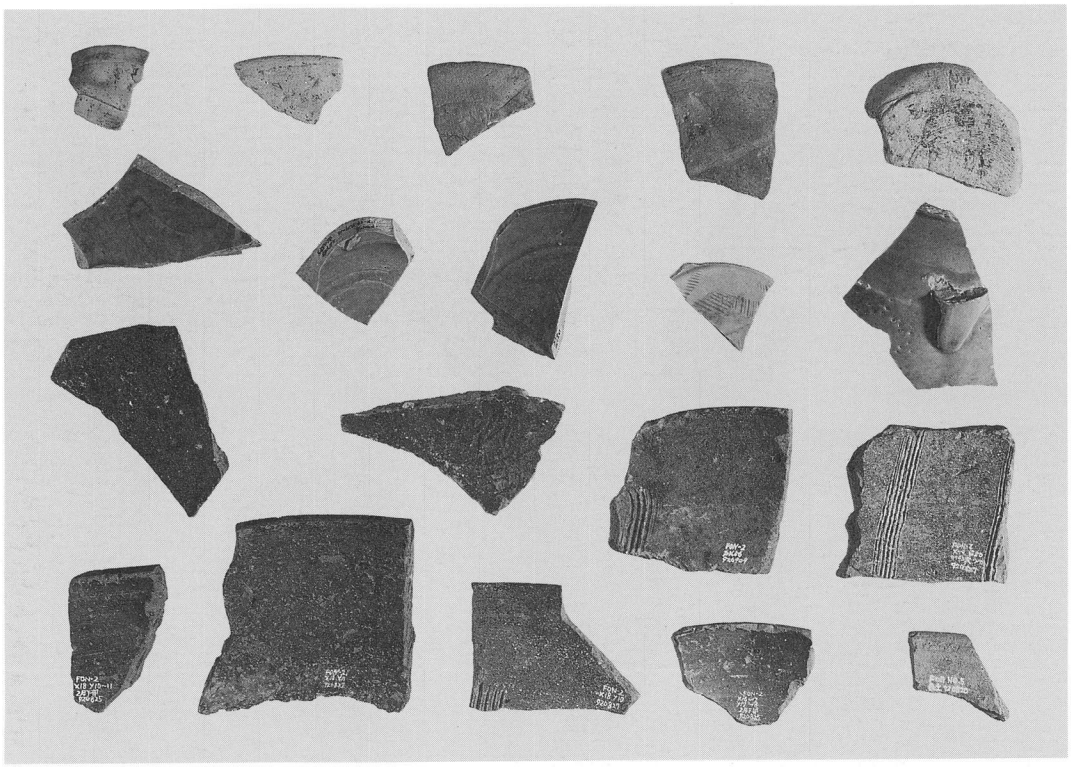
SK－56セクション(南から)



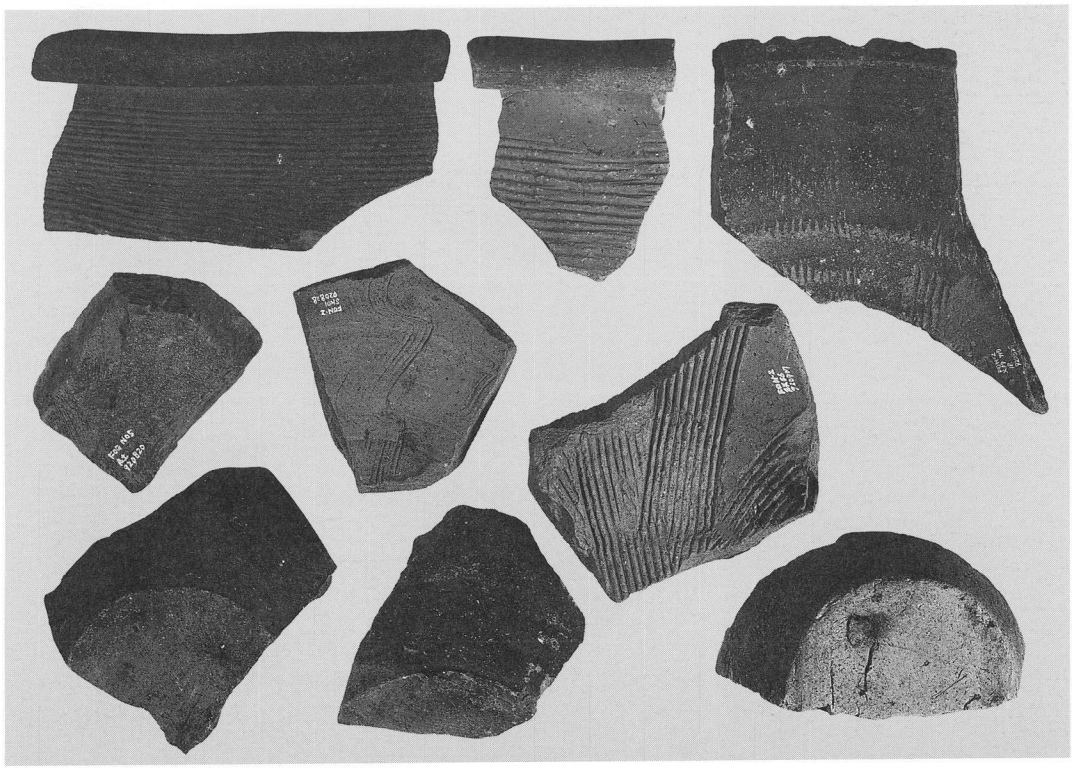
SE－02セクション(東から)



SK－48(北から)



出土遺物



出土遺物

図版8

出土遺物

出土遺物

発掘調査参加者一覧

荒川吉松・稲垣カノ・内山澄子・京田ミドリ・熊本笑子
高橋みよし・田中幸一・田中正元・田中光子・西田國子
畑野高三・本田スミ子・前坂弘之・宮本豊一・村上正夫
渡辺正三・渡辺政雄（以上五十音順：敬称略）

富山県婦中町

小倉中稲Ⅱ遺跡

――県営農地流動化特別促進ほ場整備実験事業に伴う発掘調査――

平成5年3月31日

編　集　富山県埋蔵文化財センター

発　行　婦中町教育委員会

印　刷　日興印刷株式会社